## 3　掲載種の解説

各分類群に関する掲載種の解説は、分類群全体の概要とレッドリスト種の解説の二部構成になっている。

概要の冒頭では、それぞれの分類群について、国内での総種数（概数）および埼玉県でこれまでに記録された種数を述べ、今回レッドリストに挙げられた種数が埼玉県の在来種の総種数に対しておよそ何パーセントになるかを記述している。また、本書を含めてこれまでの埼玉県 RDB 動物編におけるレッドリスト種の種数の推移についても触れている。

種ごとの解説では、全県評価のレッドランクの高い順から並べている。記述内容は、次のとおり整理した。

**【動物名】**科名・和名・学名を記載し、必要に応じて目名を追記

**【レッドランク】**全県評価及び環境省レッドランクを記載

なお、環境省による第 4 次レッドリストの公表は 2012 年であるが、それをもとにしたレッドデータブックの刊行年は魚類と昆虫類以外の分野が 2014 年、魚類と昆虫類が 2015 年なので、この欄の項目名は、魚類と昆虫類以外の分野では［**環境省（2014）**］、魚類と昆虫類では［**環境省（2015）**］とした。

**【指定状況】**国や県による天然記念物、希少種の指定状況を記載

**【形　態】**各分野が一般的に用いている外部形態のサイズを記述し、必要に応じて種の特徴である形態や色彩などを付記した。記述内容については各分類群に共通するものではない。

**【国内分布】**［北海道］［本州］［四国］［九州］［南西諸島］を基本単位とし記載

南西諸島とは、鹿児島県大隅諸島以南で、奄美諸島や沖縄本島、先島諸島や大東諸島までの島嶼をすべて含むが、それぞれの種についての南西諸島における詳細な分布情報は、各分類群の専門書や図鑑などで確認することが望ましい。

なお、北海道から九州までの利尻島や佐渡島、対馬といった個々の島嶼での分布情報についても基本的には記述していないが、種の分布様式がそれら島嶼と特異的な関係にある場合は、必要に応じてその情報も記述した。同様に、たとえば本州内でも分布域が偏在している種については必要に応じて『本州（関東地方以北）』などと（　）でやや詳しい分布情報を付加している。

**【主な生息環境】**対象種の国内における一般的な生息環境を記述

**【県内での生息状況】**2013 ～ 2016 年の現地調査で判明した生息状況を記述

文献調査などから得られた過去の生息状況にも可能な限り言及した。

**【特記事項】**上記以外に対象種に必要な内容を記述

なお、県内での生息状況と特記事項の記述については、可能な範囲でその記述の根拠となる文献を明示した。

**○埼玉県内の記録地名の表記について**

埼玉県は、2001 年 3 月末時点では 92 市町村で構成されていたが、その後、合併が進み、2016 年末には 63 市町村になっている。種の解説における過去の記録の扱いについて、合併前の旧地名での生息情報が重要と思われる場合は、たとえば、『旧大滝村（現秩父市）』のように、敢えて旧市町村名を先に表記している場合もある。